

Rin♪ Tan♪ Kei♪

60
歳以上
限定

働き方改革

わたしたちの



いまどきのシルバー人材センター

おしごと FILE

しるばータイムス@しまね かわら版 事例集



公益社団法人 島根県シルバー人材センター連合会

今の私に
ちようどいこう

仕事もプライベートも私らしく♪

自分に合った時間と働き方。
プライベートとのバランスを考
えて、カラダも健やか、心も財
布もあったかい。



シルバー人材センターの就業の基本は **臨・短・軽** Rin♪ Tan♪ Kei♪

シルバー人材センターでの就業範囲は、「臨時的かつ短期的、または軽易な業務」の範囲と定められています。「パートよりも軽易に働きたい!」、「短期アルバイトのようにフリーな時間を活かしたい!」方などにお勧めの働き方です。

シルバー人材センターで働く高齢者の日数、時間の上限

日数の上限	おおむね月10日程度以内
時間の上限	おおむね週20時間をこえないことを目安



働くことを通じて 地域に貢献

会社勤めや子育てがひと段落。
少子高齢化や人手不足が続くなかで、新シル
バー世代への期待や、活躍の場はますます広
がっています。



広がる活躍の場

次世代を育む

- 保育園、放課後児童クラブでの補助的業務
- イベント会場などでの一時預かり
- 産前産後のお手伝い など

現役世代をサポート

- スーパーなどでの短時間の業務
- 工場などでの短期間の業務
- イベント時などの繁忙期の業務 など

先輩世代に感謝

- 介護施設での補助的業務
- 軽度生活援助サービス
- 日常生活の代行 など

特技や経験や知識を活かす

- 庭木の剪定作業、草刈・除草作業
- 障子・襖の張替え
- 宛名・賞状書き など

公的サービスに携わる

- 施設の管理業務
- 環境美化活動 など

伝統的な就業・活動





File.1 みんないきいき シルバー派遣で三方よし!

2019年1月発行

人材不足、人手不足が大きな課題となっている福祉サービスの世界で、「シルバー派遣事業」を利用して円滑な施設運営を行っている事業所があります。「臨時的かつ短期的又は軽易な業務」という就業範囲内で、どのようなソリューション(課題解決)ができたのか。雲南市大東町でのケースをご紹介します。



代表取締役の百合澤正志さん

今回訪れたのは海潮温泉近くの「大東ゆりさわ」。デイサービスやショートステイ、訪問介護などの福祉サービスを提供する施設で、住宅型有料老人ホームも併設しています。運営する株式会社アミーゴ島根(本社松江市宍道町)は島根で民間初の福祉サービス事業参入を果たした会社です。代表取締役の百合澤正志さんは15年前の起業以来、人手不足の問題にずっと向き合っていました。

「私たちにとっていちばんのメリットは、シルバー人材センターの事業や体制が安定していることです。継続的に対応していただけるし、会員の方にも仕事にしっかりと向き合っていただけ。経験、技術も申し分ありません。利用者の方にもあたたかく美味しいと好評です」と百合澤代表取締役。施設管理者の深田明穂さんは「仕事が丁寧なので、安心して利用者の方に提供できます。具材を細かくさざむなど個々の利用者の介護度に合った細かな配慮の食事を準備していただけるのもうれし」と言います。



施設管理者の深田明穂さん

と聞き、問合せたのがきっかけです」申込みを受けた雲南市シルバー人材センターでは、何人かのローテーション(シフト)で対応できるということで「シルバー派遣事業」の契約を施設側と結び、開所時から会員を派遣し利用者の皆さんの食事準備という大切な仕事を担ってきました。

「うちにとっては、なくてはならない存在」とシルバー派遣事業を位置づける百合澤代表取締役。あまりの熱心な働きぶりに正規職員として迎えたいと申し出たこともあったといいます。その時は会員が「このままの働き方が自由でいいから」と辞退されたとのエピソードも教えてくれました。

チャレンジ精神で貫き通し、人のために生き喜ばれることに徹する」をモットーとする百合澤代表取締役の思いの一端を、シルバー派遣事業が支えていることを実感しました。



大東ゆりさわ (住宅型有料老人ホーム)
雲南市大東町中湯石82 (TEL.0854-43-8335)



雲南市シルバー人材センター
会員 北川栄子さん(67歳)

会員インタビュー

新聞の折込チラシに載っていたシルバー人材センターでのお仕事に応募したのがきっかけです。以前から福祉施設で働いてみたいという思いもあり、利用者の方の食事を用意する仕事にもやりがいを感じました。

仕事は週に2日か3日。4時間の時間内に20食ほどの夕食を準備します。それぞれの膳を完全に仕上げるのが私の役目。おかゆやごはんの量も利用者の方へのサービスの関係もあって毎日変わります。時間に間に合わ

せることのプレッシャーもあり、油断はなりません。でも、仕事を引き受けた以上は、張り切ってやろうと心掛けています。私はずっと専業主婦として暮らしてきましたが、夫が他界してからは一人暮らしになりました。それでも今は仕事があります。友人に囲まれ趣味などバランスよく充実した日々を過ごしています。これからもシルバー会員の仲間たちと一緒に、元気に続けていきたいと思っています。





園長の岡崎由美子さん

今回訪れたのは出雲市の社会福祉法人「わたりはし保育園」です。シルバー派遣事業を昨年の11月から導入し、それまでオーバーワークぎみだった保育士の仕事環境改善の一助になっていると園長の岡崎由美子さんは言います。

「保育士の定員は足りていますが、どうしても本来の保育以外の仕事に手を取られがちで、子どもたちを見ながら、一方で片付けや洗濯、給食の配膳など仕事に常に重なる状況でした。子どもたちが午睡をとる時間も連絡ノートを書くなど休むことさえままなりません。この状況を何とかしたいと、市保育協議会で紹介されたシルバー派遣事業担当者

保育や子育て支援の現場で多くのシルバー人材センター会員の方が、いきいきと活躍されています。子どもたち、保育士さん、そして会員。世代を超えて、みなで成長し合う仕事の様子を聞いてきました。



社会福祉法人 わたりはし保育園
島根県出雲市渡橋町 662 (TEL.0853-23-1592)

者に相談し、洗濯ものの取り込みや遊戯室の掃除、片付けなどにシルバー人材センターのマンパワーを活用することになりました。

「こちらがびつくりするほど丁寧な仕事をこなされます。やはりシルバー世代の方の真面目さ、熱心さには感心するばかりです。また保育士の労力軽減の他にも、意外な効果がありました」と岡崎さん。それは「日中、保育士と子どもたちだけの閉じられた空間に、第三者の目が入ること、いい意味での緊張感が生まれたことです。シルバー会員が自分の仕事をしながら、つかずはなれ

ず子どもたちを見守ることで、保育士の仕事の質の向上にもつながっています。」さらに保育の空間に「おばあちゃん」という存在が加わることで、子どもたちにも他世代との共生を意識させる効果があり、感性豊かな人格形成につながると岡崎さんは期待します。

会員インタビュー



出雲市シルバー人材センター
会員 草野弥生さん (62歳)

長らく勤務していたスーパーを60歳で退職し、しばらく家で過ごしていましたが、家族の介護などでこもるようになって…。これではいけないとハローワークへ通い、職業訓練のパソコン講習で久しぶりに笑うことを経験し、外に出ようと決意するきっかけになりました。そしてシルバー人材センターの方に出会い保育園での仕事を紹介していただきました。

最初は小さい子どもたちとうまく

「保育の現場にはおばあちゃんの役割も必要です。その存在は子どもたちはもちろん、若い保育士にも、園にとっても良い効果があります。存在自体に興味がありますので、関心のある方はぜひ保育の仕事に関わっていただきたい」と話してくれました。

触れあえるか心配でしたが、子どもたちの方からひつひつきてきてくれて、私の膝の上に乗ったり、おばあちゃんと呼んでくれたり。元気な声がいつも聞けるのがいいです。子どもたちの日々の成長が見られるのも楽しみです。仕事は週に3日、9時から12時まで。掃除や洗濯ものの片付け、遊びや学習の材料準備などもします。体力的な負担はなく、子どもたちと触れあうことで私の方が元気をもらっている感じ。これからも笑顔で仕事を続けていきたいと思っています。



愛着のある職場で再び働く 2020へ、もうひと頑張り!



ホームプラザナフコ 松江店 店長の赤司哲哉さん

全国に366店舗を展開する「ホームプラザナフコ」(本社/北九州市)では、昨年度からシルバー派遣事業を導入したことで、定年退職後の元社員が改めて同職場で仕事に就いたケースがあります。背景には、近年同社が施行した定年制度があります。

「この松江店は出店20年目になります。しだいに社員が高齢化するなか、まだ働ける人でも定年で退職せざるをえない状況が出てきました。」と松江店の赤司哲哉店長は言います。こうした問題は全社的な傾向でもあり、本部として人材の確保のために、シルバー人材センターの派遣事業を活用することを進

高齢者の就業形態や就業機会創出についての対応が急務なのか、シルバー派遣事業を活用し、定年後の再雇用・雇用延長などの枠を超えた働き方を実現する企業があります。

どんな事例なのか、訪ねてみました。

めました。その結果、シルバー会員に登録していた元社員が、再び当店で就業することになったという新しい就業形態が生まれました。

「経験やスキルのある方たちが、まだ仕事ができるのにリタイヤされるのは店にとつては大きな損失です。それがシルバー会員に登録していたことで、また戻ってくることもある。就業条件もより楽なものとなり、店にとつても、働く人にとつても双方にメリットがあります。もちろん、ホームセンター勤務経験のない会員の方でも、簡単な仕事からスムーズに仕事に入ってもらえるようフォローもしています。シルバー派遣事業は高齢の方でも働く意欲

と元気があればずっと仕事が続けられる良い事業だと思えます。」

さらに現役の社員にとつても定年後の道筋が見えるようになったことで、より安心して就業できる環



ホームプラザナフコ 松江店

島根県松江市竹矢町1850-15 (TEL.0852-38-9261)

会員インタビュー



安来市シルバー人材センター会員
吉川哲郎さん (71歳)

境になったと赤司店長は喜びます。安定した人材確保に繋がり、経験が豊かなので頼りにできる存在であることな

金属加工会社を定年退職後、シニアワークプログラム技能講習に参加しました。このナフコで職場体験があったお話をいただき、9年前からここで仕事をしています。資材館という部門で、建築関係などプロの方が多いらしいです。最初の頃は専門用語や道具の名前などわからないことだらけでしたが、お客様の方からいろいろ教えてもらう形で覚え、こうして続けてこられました。現在のシルバー会員としての仕事は



ホームプラザナフコ 松江店の資材館

たが、お客様の方からいろいろ教えてもらう形で覚え、こうして続けてこられました。現在のシルバー会員としての仕事は



資材館店内

の世の中なので、自分なりに貢献できればと励んでいるところです。

何が楽しいかというと、やはり接客です。知り合いも増えるし、いろいろな話を聞いて自分の知見も広がります。ここの仕事を始めてから自分でも道具をあれこれ揃えDIYを愉しむようになりました。

まずは来年の東京オリンピックまでは、もうひと頑張りしたいと思っています。

※1シニアワークプログラム技能講習
厚生労働省委託事業
平成10年から平成27年
まで島根県シルバー人材センター連合会が受託し、高齢者の再就職を目的とした技能講習と就業支援を実施

ど、今後も多方面でシルバー派遣事業への期待を寄せたいと語っていただけました。



接客中の吉川さん

学童保育の現場に シニア世代のマンパワーを



有限会社 いっしょに子育て研究所
代表の宮原展子さん

松江市西津田に本社がある有限会社「いっしょに子育て研究所」では保育事業、親子教室やイベントの企画運営、育児用品販売など多彩な子育て支援事業を行っております。8年前から取り組む学童保育も年々受入人数が拡大し、常に定員いっぱいという状況でした。ついには今年の新入生の受け入れが困難になり、急遽もう1クラス（40名）増やすことになりましたが、問題はスタッフの確保でした。

松江市シルバー人材センターが乳幼児の一時預かり業務を行うことを知っていた代表の宮原展子さんは「学童保育支援もしてもらえないか」と打診。しかし学童保育は未対応と、いったんは断われましたが、それでも島根県シルバー人材センター連合会に相談したところ「他のセンターでの事例があるので、こちらで

放課後の子どもたちが過ごす場所、学童保育。共働き世帯が多い島根県ではそのニーズが高く、施設や環境の整備が進む一方で、変則的な就業形態などから人手不足が課題となっております。

そこにシルバー派遣事業を導入し、円滑な運営を果たした事業所があると聞いて、訪ねてみました。



松江市シルバー人材センター
理事の窪田 隆子さん

も何とか...」と前向きな返事を得たのが3月のこと。

ただ松江市シルバー人材センターが学童保育に参加するのはこのケースが初めて。体力面や子どもたちとの接し方など不安な要素も考えられましたが、同センター理事の窪田 隆子さんは「将来のある子どもたちに、年齢を重ね経験もある私たちから与えられることも、きつとある」と自らメンバーに加わるなどして計10人でシフトを組むことができ、4月のスタートに間に合わせることができました。

「ほんとに良い方たちに来ていただき、とても助かっています。学童保育は教職や保育士の経験者ばかりでなく、いろいろなタイプの方がいるほうがより充実すると思いますので、シルバー会員の皆さんの活躍はすくなく頼もしい」と宮原さん。あえて前職は聞かないが各々の得意なものを活かして子どもたちと接することで、にぎやかな学童の時間に落ち

着いた雰囲気や子どもたちの知らなかった昔の遊びの風景が見られることがうれしいと言います。

「けつこう疲れるのではと心配になることもありますが、それでもシルバー会員の方の存在は、子どもたちの学び、遊び、経験づくりに大いに役に立っています。今後は皆さんのキャリアやスキルをさらに活かせるよう、プログラム等を工夫したい」とも。窪田理事も「宮原さんのビジョンに沿って、私たちも協力したい。なに

より子どもたちに会うのが楽しみ、こちらが元気をもらっていますから」と微笑みます。

学童保育の現場に入ったシルバーパワー。期待も大きく今後ますます充実したものに なりそうです。



有限会社 いっしょに子育て研究所
島根県松江市西津田2丁目9-4 (TEL.0852-25-2225)

会員インタビュー



松江市シルバー人材センター会員
長瀬賢治さん (69歳)

建設関係の事務職を62歳で退職し、京都からUターンしました。シルバー会員になって庁舎等の施設管理を希望。しばらく清掃業務なども経験しましたが、今年の4月から縁あって、この学童保育の仕事に、夫婦二人で就かせていただきました。それ以前も地区の児童クラブや幼稚園でのボランティア経験もあり、すぐに慣れることができました。勤務は14時から19

時まで、週2回です。

自分が子どもの頃に遊んだ水鉄砲やゴム鉄砲、竹馬や竹とんぼを、自宅で作って持ってくる、子どもたちがすごくよるこんで遊んでくれるのがうれしいですね。最近の子は不慣れなのか、自分ではこうした玩具や道具が作れないようなので、できれば作り方から教えてみたいと思っています。また学童に将棋盤があつて、子どもたち同士でさしているところに入って一緒に楽しんでみますと、そのうちに将棋がブームになったようで、熱心に取り組む子どもが増えたのもうれしかったです。子どもたちが自分の力でぐんぐん成長していける支えとして、自分なりのペースで頑張っていきたいと思っています。

季節仕事にも シルバー派遣事業で対応



島根県の農産加工品は優れた素材の持ち味をいかした良質な加工と美味しさから高い人気があります。その生産現場では、素材の収穫時期や需要時期などから仕事量の季節的な片寄りがあり、人員配置などが課題となっています。そこにシルバー派遣事業を活用して円滑な生産体制を持つ事業所があります。

仁多米や飯南米、奥出雲和牛など美味しい食材が豊富な島根県雲南地域は「食の宝庫」とも称されるほど農業が盛んなところで、その食材を使った農産加工品づくりも地域経済の一翼を担っています。雲南市木次町の「JAしまね雲南地区本部」では、米や和牛などの商品化、加工品づくりに力を入れ、全国規模での展開をしています。なかでも杵つき製法でつくられる「奥出雲仁多餅」「とんぼら丸餅」は、煮崩れしにくく、コシとねばりの強い口当たりから人気商品となっています。しかし餅づくりの繁忙期が年末に集中するため、近年はその人員確保が課題であると農産加工課の福田課長はいます。

「かつては自分の田畑の仕事を終えた農家の人が、正月前の仕事として餅づ



JALしまね雲南地区本部
農産加工課 課長の福田忠さん



JALしまね雲南地区本部
総務課の細木聖司さん

くりに来ていたただいていましたが、そうした皆さんも高年齢になったり、働きなくなったりで、10年くらい前から人手の確保が難しくなりました」

平常月は少人数でまかなえる加工品づくりも、年末の3ヶ月間で120トンという大量を製造する餅づくりに関してはどうしても人手が必要となります。そこで安定的な人材確保のため5年ほど前からシルバー派遣事業を利用するようになったといいます。

「シルバー会員の方には餅づくりの補助のほか、きな粉づくりもお願いしています。以前は餅づくりの繁忙期には人手が足りず、同時期に必要なきな粉の製造をストップせざるをえない状況でしたが、現在は同時生産が可能となつて、たいへん助かっています。繁忙期だけの季節雇用のような就業形態も可能なシルバー派遣事業ならではのメリットを実感します」

餅づくりの生産工程はすべて機械化され省力化が進んだものの、工程間のつな

ぎや移動のほか、最後の成形、押し具合には人の手が不可欠と福田さん。「やはり人の手のかかったものは、おいしさが違います。それが手作りの良さであり、機械任せにはできない部分でもありますから」

食品製造ゆえの徹底した衛生管理、品質管理などに最大限留意するのはもちろんのこと、その上に手作りの思いを加えた商品づくりに、シルバー会員の手が活かされている仕事の現場でした。

会員インタビュー



雲南市シルバー人材センター会員
陶山 正さん(64歳)

以前は金融機関に勤めていました。退職と同時にシルバー人材センターに登録し、そこで紹介されたのが奥出雲町にある仁多加工所での餅づくりの仕事です。今年で5年目になりましたが、最初に話をいただいたときは、はたして自分に務まるのか、全くの畑違いの仕事ということもあって不安だらけでした。9月に勉強会があり、衛生管理の手順などを学び働き始めましたが、やはり最初の頃は慣れない仕事で筋肉痛になったり苦労もありました。



の時間が持て余裕をもった生活ができます。定年後からはじめた絵手紙などの趣味の時間も自分にとって大切な時間となっています。



JAしまね 雲南地区本部
島根県雲南市木次町里方 1088-6 (TEL.0854-42-9000)

子ども好きシルボンヌのプチワーク 一緒に成長する喜びを実感



一時預かりの様子（緊急事態宣言前）

核家族化や転勤、1ターンのなどの理由から、子育てを実家や知人などに手伝ってもらっていることができず困っている家庭が島根県でも増えています。そこで必要とされるのが地域の力。産前産後の時期などにある女性の家事や育児を一時的に支え、子育ての大変さを軽減するための地域ぐるみの施策に、シルバー会員のマンパワーが活かされています。

妊娠中や出産前後、子どもがまだ小さいうちは心配事が多かったり、身体も自由に動かせなかったりなど、日常の暮らしを営むにもなにかと困難が伴うものです。そんなときに身内や友人などにお願いで助けられたという人も多くありますが、その助けがかなわない人もいます。松江市では、そうした妊娠中から就学前まで期間の支援として平成18年度から「訪問型子育てサポート事業」を行い、事前に登録された家庭での家事や育児を支援することで、産みやすく育てやすい環境づくり、子ども

たちの健全育成に資するよう取り組んでいます。この事業主体である松江市子育て支援センター家庭支援係長の恩田敏子さんは、「子育て中の大変だった辛かったりしたこともなつかしい思い出になるよう、この事業が役立てれば」と語っています。

具体的な支援としては調理や洗濯、掃除、沐浴、食事の世話、遊び相手や相談相手などですが、これらを実際に行う「子育てホームサポーター」の確保が必要です。市ではホームサポーター養成講座を実施するなど、これまで延べ220人を認定しましたが、いま活動を行っているのは数十人とどまっています。そうした状況の中、松江市シルバー人材センターもこの事業の委託先のひとつとしてサービスを提供しています。

松江市シルバー人材センターでは、この事業の立ち上げ当初からサポーター養成も含めて関わりを持ち、人生経験豊かな女性が適材であるという考えのもとに、「乳幼児の一時預かり業務」と並行して、この「訪問型子育てサポート事業」に取り組んできました。現在で

は10名の会員が子育てホームサポーターとして登録されています。ときには育児についての相談事などされることもあり、そんな時には、ネットや育児本など数多くの情報があるなか、経験に基づいた生きた情報としてよければいいことも多いといえます。松江市子育て支援センターの恩田さんは「ご家庭に入っていく活動は、楽なことではないと思いますが、実際の活動に際して、あたたかく親身になってご家庭の支援をしていただいている様子聞き、また、この活動を続けていただいていることに本当に感謝しています」と語っています。

会員インタビュー



松江市シルバー人材センター会員
吉岡 三重子さん（77歳）

ホームサポーターとしてこの仕事に就いてからもう12年になります。それ以前から一時預かりふれあいサロンのボランティアとしてお母さん方と一緒に子どもたちのお世話もしています。子供さんや赤ちゃんが好きで、そんな仕事に就きたかった夢もかない、長く続けられています。日頃の活動では子どもたちへのやさしい言葉、声掛け、とくに褒めてあげることが心掛けています。また抱っこやおんぶなどのス

キンシップも大切。お母さん方の中には抱き癖がつくからあまり抱っこしない方がいいのではという方もいらっしゃいますが、そんなときにもスキンシップが大切です。お母さん方も「いろいろ大変で」と言われますが、「完璧なお母さんなんていないんだから大丈夫ですよ」と励ましたり。私たちの存在や助けがお母さん方の安心につながれば、それがいちばんだと思っています。私の仕事のペースはだいたい週に2〜3回。それぞれ2時間ほど。ときには遊び盛りの子どもたちとかけっこ遊びをしたりもします。子どもたちとのふれあいで明るく、元気に過ごせています。サポーターの仲間とともにずっとこの仕事をしている。



松江市シルバー人材センター

※「シルボンヌ」とは「silver/シルバー」と、フランス語で女性の「親切」「お手伝い」「優れた」という意味の「bonne/ボンヌ」の造語です。

地域を支えるプチワークの担い手を。 講座でHappy&キャリアアップ!



人口減少や急速な高齢化が進む島根県の中山間地域・離島などでは、様々な場面でのマンパワー不足が課題となつていいます。シニア世代の女性の活躍が期待されるなか、当地のシルバー人材センターではそもそも女性の会員登録が少なく、事業所からのニーズに対応できていませんでした。そこで、島根県シルバー人材センター連合会では、美郷町と隠岐の島町のシルバー人材センターとタイアップして、それぞれ6回の会員向けキャリアアップ講座を開催。あわせてお試しキャンペーンを企画して、会員以外の方の参加も呼びかけています。今回は、美郷町での様子をレポートします。

講座は、「コミュニケーション」「健康」「エッセイ」「身だしなみ」「調理や片付けの技能」など、シルバー人材センターでの就業に役立つこととはもちろんですが、楽しく参加できて生活に密着したテーマばかり。

この日の講師は、テレビやラジオで活躍中のフリーアナウンサー&エッセイストのおがっち(小片悦子)さん。「シニア世代の健康脳トレ〜イキイキライフは声を出すことから〜」をテーマに、今、世間を悩ませている新型コロナウイルスに負けたくないよう免疫力を高めるためにも、ハッピーになるコミュニケーション術を



フリーアナウンサー & エッセイストのおがっちさん

身に付けて、笑ったり、声を出したりすることが大切という話からスタート。休憩をはさんだ後半はアクティビティの時間となり、腹式呼吸法や滑舌の練習、音読を通して右脳と左脳を刺激することの大切さ、そして喉自体を鍛える筋トレの方法などを、実際に声を出しながら楽しく学びました。

おがっちさんは「健康でハッピーな暮らしを長く続けていくには、今回のような脳トレでの音読は効果が高いと思います。発声の基礎や練習なども毎日のトレーニングとして身に付けていただければ、「みなさん勉強熱心でこまめにメモをされたり、声を出さずとも頑張られて、ほんとに前向きな方たちでした。もつとやらなきゃ、そのために何をどうすればいいの?という具体的なものを求められているのだと思います」と語ってくれました。

「福祉や保育の現場では人手不足が深刻で、町もその対策として定住ポイント制な



美郷町社会福祉協議会の児島智和事務局長

様々な事業を人材確保のために導入していますが、新たに町外から来てもらうのには、やはり限界が：」と美郷町社会福祉協議会の児島智和事務局長も厳しい現状をみます。一方で、事業所からは専門職でなくても、補助的な役割で1〜2時間でも手伝ってもらえないだろうかという要望もあります。島根県シルバー人材センター連合会の北國コーディネーターは「昨年に邑智

会員インタビュー

参加の理由をたずねたところ「自分の知らないことを勉強して、身に付けたい。良い経験になると思うから」、「友だちに誘われて」、「コロナのおかげですつと外出を控えていて外に出るきっかけが欲しかったから」といった声や、「講師がおがっちさんだったから」、「おがっちさんのラジオ番組が好きでよく聞いているから」といった声もありました。

笑いも交えた終始和やかな雰囲気での講座を終え、「楽しかった。口角が上がりました」、「二人暮らしで外に出ることも少なかったのですが、今日はとてもいい話が聞けて良かった」、

「家族以外の人と会話できたことが楽しかった」、「頭の回転のスピードアップになった」といった感想をいただきました。



「あめんぼ赤い アイウエオ…」、「青巻紙 赤巻紙 黄巻紙」と、口も頭も大忙し!

分室ができ、様々な企業や事業所を回っていますが、どこも人手が足りないという声を聞きます。フルタイムではなく週20時間未満のプチワークで働くことは自分にも地域にもプラスになる新しい働き方です。この講座への参加をきっかけに、仲間づくりもできるシルバー会員に登録していただけたらと思います」と強調します。

当日は新しい生活様式にのっとりお互いの間隔を広げたこともあつて8人の参加。そのぶん講師と参加者との親密なやりとり、豊かなコミュニケーションの機会を持つことができたとようです。今後開催される講座でも同様に、学ぶことの楽しさを主体的に、かつ実践的に実感できるという期待が高まりました。

百聞は一見に如かず! スーパーマーケットでの多彩なお仕事を見学



人口減少や社会全体の高齢化による労働力人口の減少が見込まれています。島根県シルバー人材センター連合会では国からの委託を受けシニア世代の人手不足分野への参入と地域での活躍を推進する一環として、技能講習・就労見学を実施しています。このたび、実際のシルバー派遣事業の現場を見ることで、会員になって就業へのきつかけとしていただく就労見学を、出雲市の大型スーパーマーケット「ラピタ本店」で開催しました。今回はその様子を紹介します。

出雲市では近年大型店の出店が相次ぎ、どの店舗でも人材確保が課題となっています。またスーパーマーケット・小売りという業種は働く人の出入りが激しく、ドラッグストア・コンビニエンスストアも含めて多様な働き方ができると、それだけ人材の確保が難しくなっているとJ.A.しまね出雲地区本部生活部ラピタ本店店舗管理課の杉谷道雄係長は話します。そうしたなか「シルバー人材センターからは多くの会員の方に就業に来ていただき、ラピタにとっては欠かせない存在となっており、会員さんのマンパワーがないと運営が成り立たないような状況」と期待を寄せ、

コロナ禍でもスーパーの経営は安定して推移しており、シルバー派遣事業も変わらず需要があると位置づけています。

オリエンテーションについては就業現場の見学です。商品の品出し・陳列は、開店前の2時間半（7時～9時30分）に空いている棚に商品を充てんする仕事で、現在は7人の会員があたっています。見学では店内の陳列棚の様子や数多くの商品がストックされるバックヤード、搬入口も見せていただき、仕事の流れがよくわかるよう説明がありました。店内で調理されるお刺身など鮮魚加工品や日配品とよばれる豆腐や牛乳などの品出しは寒さに気をつけるようにとの説明もありました。その他の箇所も案内があり、レストランでは女性を中心とした会員3人が接客にあたり注文をとったり配膳をしていること、玄関正面にある杵つき餅のコーナーでは2人の会員が餅の製造・販売を手伝っていることなど、実際の現場を見ながらの紹介がありました。ラピタ本店ではこの他にも、家電製



ラピタ本店店舗管理課の杉谷道雄係長

品の配送・設置業務に3人、魚介や肉製品を製造するパッキングセンターから各店舗への配送ドライバー業務も3人の会員に手伝って

いただいているとの説明がありました。また年末恒例のガラポン抽選会のスタッフとして40人のシルバー会員に就業していただいているという説明には参加者が

参加者の声

今回の就労見学の参加者は6人。「今、ハローワークに通っていて、こちらもどうかと思いい参加してみました」という方も。

店舗内の見学後に行われた質疑応答では、商品の品出しは開店前以外の時間でも就業可能か、どの商品を出すのかは自分で判断するのか、重いものは無理かもしれないなど具体的な質問が出ました。これに対して、複数会員での分担でそれぞれの都合の良い時間に調整していること、責任者の指示を受けて仕事をすること、体力的な負担はないように配慮してあることなどシルバー派遣事業ならではの説明がありました。またウイズコ

からも思わずほおと声が出ました。

ラピタの杉谷係長は「餅の成形など熟練した経験が必要なので、シルバー会員の方はまさに即戦力です。ラピタの客層は年輩の方が多くシルバー会員の方も受け入れやすく、地域密着型の経営をする当店にとってはプラス。今後もシルバー会員の方の就労の受け皿として、共に歩んでいきたい」といいます。今回の就労見学はラピタ本店としては初めての取り組みでしたが、地域やシルバー人材センターとのつながりの大きさを実感したとのことでした。

ロナの時代に対応し、従業員やスタッフへの徹底した感染予防対策がとられていることも安心の材料につながったようです。

「イメージと違っていた」「パートタイムの方がいい」という声もありましたが、これも見学してみたからこそです。2日後の入会説明会で、さっそく入会した方もいらっしゃいました。



「品出しの仕事をしていると、人気商品がわかります」とのウラ話も...

子どもたちの放課後の時間を安全で豊かなものに



養護学校に通う子どもたちが放課後を安心して過ごすことができる。ハッピーアフタースクール(※)でも、スタッフの確保について苦労することがあるといいます。そこにシルバー派遣事業を導入してクラブの運営を円滑に進めるケースが隠岐の島町にあると聞き、訪ねてみました。

(※)ハッピーアフタースクール事業／特別支援学校に通学する在宅の児童・生徒を対象に、空き教室等を利用して、放課後及び長期休暇期間に児童・生徒を預かり、保護・育成を行う事業で県が助成しています。

今回訪れたのは島根県立隠岐養護学校の保護者会が運営する「しおさいクラブ」。平成15年から島根県のハッピーアフタースクール事業を活用して運営にあたってきましたが、スタッフの確保が予定通りにいかず、週三回のクラブ開催日を週二回に減らざるを得ない状況が続いていました。

クラブ運営を中心になって支える代表代行の田中さんによると、代表からの打診で運営に携わるようになったのは2年前とのこと。それまでは障がいのある子どもたちと深く関わることも、必要な知識もほとんどなかったと言います。それでも引き受けたからにはしっかり取り組もうと、知り合いなどに声をかけて集まったスタッフでスタートしましたが、どうしても人手が足りません。そこで昨年の春、ハローワークにスタッフ募集の求人を出すことにしました。

昨年1月に開所したシルバー人材センター連合会隠岐分室の國生コーディネーターが時を同じくして、この求人

注目。クラブ側にシルバー派遣事業の特徴を紹介する一方、事前に会員と一緒に就業見学を行うてクラブの雰囲気があるようにしたり、会員の仕事への理解を深めるなど、丁寧に準備を進めました。コロナ禍の影響もあり開始時期は若干ずれましたが、夏休み明けの昨年9月からシルバー会員4名がスタッフに加わり「しおさいクラブ」が本格的な運営に向けて動き始めることになりました。

保護者が迎えに来る夕方まで、子どもたちの自発的な遊びや活動を支えるのがスタッフの仕事です。現在は校舎階の小学部教室と二階のパソコン室を利用して月曜日と金曜日の放課後にクラブが開かれ、3人の児童・生徒が利



お昼寝の児童をやさしく見守る

用しています。シルバー会員も14時30分から17時までのプチワークで運営をサポートします。

運営にあたるクラブの皆さんからは「二人の子に二人のスタッフが必要なので、いつもきちんと予定どおりの人数で来ていただけるので助かります」、「人生経験が豊かな方たちなので、子どもたちへの接し方など参考になることも多いです」という声がありました。

子どもたちが放課後の時間を安全に豊かに過ごす「しおさいクラブ」。スタッフの若い力とシルバー会員のやさしさと

会員インタビュー

東京から4年前にUターンして、普段は企業でパート勤務をしています。昨年の7月、何か新しいことにチャレンジしてみたいとシルバー人材センターに入会しました。「養護学校の子どもたちとということでは責任感をまず感じました。経験も浅く、まだ見守ることしかできない私ですが、何か人の役に立てていると感じます」と言います。この日は高校2年の女子生徒のパソコン操作の見守りでした。少し間を取りながらも、しっかり支えるようサポートします。「いい子たちなので、自分もやさしく素直になれるような気もしています」とも。「外に出て元気で活躍で

経験の力を合わせて、今後も二人三脚で仲良く取り組んでいきたいと話してくれました。



島根県シルバー人材センター連合会の隠岐分室(隠岐の島町社会福祉センター内)



自然と手も一緒に動きます。

きることは素晴らしいことです。いろいろな仕事をするのは、いい経験になりますよ」と同世代のみなさんにエールの言葉をいただきました。

ピンポイントの シルバー派遣で広がる笑顔



施設管理者の藤原英樹さん

そんな悩みの相談を受けた美郷町社会福祉協議会の事務局長・兒島智和さんは、シルバー派遣事業の利用を提案しました。つくし苑も派遣労働者の受け入れは初めてとあって、午前中2時間、週2回のホール内の見守り業務を、まずは2週間の契約で試すことに。シルバー人材センターの派遣会員として、就業することとなった西上時恵さん。

年々、利用者数が増える一方、常にスタッフ不足という課題を抱えています。「午前中は入浴介助に人手がとられ、午後はバイタルチェック表の記入といった事務業務があります。どうしても、ホールの職員数が不十分になりがちです」と語る施設管理者の藤原英樹さん。

美郷町デイサービスセンター「つくし苑」は日帰りで利用でき、入浴、昼食、機能訓練などのサービスを提供しています。県内では珍しく、温泉の入浴設備があるほか、職員さんが脳トレのゲームを手作りするなど、アットホームな雰囲気での利用者の方々に親しまれています。

美郷町の通所介護事業所で、初めてとなるシルバー派遣事業がスタート。人材を必要とする時間帯にシニアパワーを活用して、職員の負担を軽減しました。サービスを「層充実させる」ことができ、利用者にも喜ばれています。



事務局長の兒島智和さん

の見守りに、レクリエーションの指導を加えること、時間も13時半から16時の2時間半に変更しました。

「資格を取得されていることから、最初の4回の就業を終えた段階で契約内容を見直すこととなりました。利用者」

さんは、美郷町社会福祉協議会で長年ケアマネージャーとして活躍していた人材です。ヘルパーの経験はないものの、介護サービスのことは十分承知しています。また、日本レクリエーション協会のインストラクター資格を取得されていることから、最初の4回の就業を終えた段階で契約内容を見直すこととなりました。利用者」

「日頃は、美郷町役場が主催する福祉講座のお手伝いなど、様々なボランティア活動に参加しています。この仕事も人とふれあえますし、資格も活かせる」と西上さんは、やりがいを感じています。「1回2時間半の働き方は負担にならなくて、ちょうどいいですね。帰宅後に洗濯物を取り込んだり、田んぼの見回りをしたり、家事もしつかりこなせます。大好きなレクリエーションで利用者の皆さんと笑い合える今の仕事は、私の健康管理にも役立っています」

事業所概要

「通所される皆様を家族のように支えたい」をモットーに、笑顔を大切に「二期会」の心で対応する福祉施設。日帰りで通ってもらい、集団での社会的な交流をはかることで孤立感を癒し、自立を支援しています。裏庭には菜園があり、季節の野菜を使った手作りランチも提供されています。

一日利用定員	25名
時間	9時15分～16時30分
営業	月曜日～土曜日(12/29～1/3を除く) 祝日・祭日は営業
提供サービス	入浴、個人にあつた食事、介護や生活等について相談・助言、健康状態の確認、機能訓練、レクリエーション等の趣味活動
一日の流れ	9:15 到着、健康チェック 10:00 入浴 12:00 口腔体操、昼食 13:00 ホットパック(温熱療法)・個別機能訓練 15:00 集団体操・レクリエーション 16:00 茶話会 16:30 帰宅



美郷町社会福祉協議会の在宅福祉サービスには、つくし苑のような通所型と自宅に訪問して身体介護や生活支援サービスを提供する訪問型があります。「今のところ訪問型のサービスは、資格をもった訪問介護員が行っています」

と語る笑顔が輝いています。つくし苑の藤原さんは、大きな手応えを感じると言います。「以前はホールの見守りが手薄になり、利用者さんの転倒や誤嚥が不安でした。西上さんがいるときはその心配がなくなり、安心して目の前の介助や事務に集中することができました。それに都合のよい曜日と時間帯に、ピンポイントで来てもらえることも助かっています。いつも手作りのグッズやゲームを持参してくださり、レクリエーションの実践的なノウハウも勉強させてもらっています。何より、利用者の方々が笑顔になって、ホールの雰囲気が一層明るくなるのが嬉しいですね。つくし苑に新しい風が吹きました」と大変満足そうです。



シルバー会員の西上時恵さん

「地域は部屋の掃除や買い物など、ちょっとした生活援助サービスをシルバー人材センター会員が支えあいサポートとして提供していければ」。そう言いつつ、兒島さんは明るい展望を見出します。

地域はシニア世代に支えあいサポートとして活躍するきっかけとなる技能講習や、シルバー人材センター会員限定のキャリアアップ研修も実施しています。ますます、福祉分野での地域を支えるシニア世代の活躍に期待が高まります。

時を忘れて出雲神話の世界へ 癒しのカフェの人材不足は シルバー派遣でまあるく解決!



maru cafe (まるかふえ)

前方後円墳の「古墳ゼリー」など、企画展にちなんだ期間限定メニューが話題を呼んだ博物館カフェ。人気が高まる一方で、大きくなった課題が人材不足でした。それを解決したのがシルバー派遣事業です。今回は、シニアのマンパワーで円滑な運営が実現した観光スポットを訪ねてみました。

縁結びの神、福の神として名高い出雲大社。その東隣りにある「鳥根県立古代出雲歴史博物館」は、2007年に開館した県内屈指の観光スポットで、2021年11月には入館者400万人を達成。主に出雲大社を中心とした古代出雲についての紹介や展示物が常設されており、古代文化や信仰をテーマとした企画展も年に数回開催されています。

この施設の2階にある「maru cafe(まるかふえ)」では以前、観光客が増えてきたことにより人材不足に困っていました。「ハローワークに求人を出しても反応がない状況でした。そこで内部で相談

してシルバー人材センターに聞いてみることにしました」と語る総務管理マネージャーの藤井一成さん。



総務管理マネージャーの藤井一成さん

とも。

即戦力となり、とてもありがたいです」

現在、カフェでは4名のシルバー会員が活躍中です。仕事内容は調理補助を中心に、忙しい場合はホールの手伝いなども対応します。就業は一人あたり週3回程度、午前または午後の短時間、期間は3カ月が基本。毎月、カフェのスケジュールとシルバー会員のスケジュールをすり合わせて調整し、無理のないシフトが組まれています。さらに、これまでも、企画展や特別展、イベントなどの短期スタッフなども継続的に活用してきたことで、急に人

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

必要時間と必要な日だけ派遣してもらえ、一

番のメリットです。

ね。シルバー会員さんは人生経験を積ま

れた方々なので

材が必要になった場合でも迅速に派遣できる体制が整っています。

実は、藤井さんにシルバー人材センターを提案したのは、支配人の前田将人さんでした。前田さんは当時をこう振り返ります。「以前、地元で町内会長をしていた際、公園の芝刈りをシルバー人材センターに依頼したことがありまして。その時、センターの対応がすごく良かったんです。こちらの身になつて提案してもらえて、就業されたシルバー会員さんも、きちんと仕事を仕上げてくださいました。これなら安心して任せられると、感心した覚えがあります。そんな経緯もあって、藤井マネージャーに提案したんですよ」



支配人の前田将人さん

また、「博物館のアテンダントの補充や、ミュージアムショップのスタッフが必要な時

にもお願いしたいですね」と、前田さん

は今後の活用も考えていると言います。

当日就業中のシルバー会員さんにも

話を伺いました。「定年退職をして家にいたのですが、まだ何かできるという思いが



当日就業中のシルバー会員さんにも話を伺いました。「定年退職をして家にいたのですが、まだ何かできるという思いが

に依頼したことがありまして。その時、センターの対応がすごく良かったんです。こちらの身になつて提案してもらえて、就業されたシルバー会員さんも、きちんと仕事を仕上げてくださいました。これなら安心して任せられると、感心した覚えがあります。そんな経緯もあって、藤井マネージャーに提案したんですよ」

また、「博物館のアテンダントの補充や、ミュージアムショップのスタッフが必要な時

にもお願いしたいですね」と、前田さん

は今後の活用も考えていると言います。

当日就業中のシルバー会員さんにも

話を伺いました。「定年退職をして家にいたのですが、まだ何かできるという思いが

に依頼したことがありまして。その時、センターの対応がすごく良かったんです。こちらの身になつて提案してもらえて、就業されたシルバー会員さんも、きちんと仕事を仕上げてくださいました。これなら安心して任せられると、感心した覚えがあります。そんな経緯もあって、藤井マネージャーに提案したんですよ」

また、「博物館のアテンダントの補充や、ミュージアムショップのスタッフが必要な時

にもお願いしたいですね」と、前田さん

は今後の活用も考えていると言います。

当日就業中のシルバー会員さんにも

話を伺いました。「定年退職をして家にいたのですが、まだ何かできるという思いが

に依頼したことがありまして。その時、センターの対応がすごく良かったんです。こちらの身になつて提案してもらえて、就業されたシルバー会員さんも、きちんと仕事を仕上げてくださいました。これなら安心して任せられると、感心した覚えがあります。そんな経緯もあって、藤井マネージャーに提案したんですよ」

また、「博物館のアテンダントの補充や、ミュージアムショップのスタッフが必要な時

にもお願いしたいですね」と、前田さん

は今後の活用も考えていると言います。

当日就業中のシルバー会員さんにも

話を伺いました。「定年退職をして家にいたのですが、まだ何かできるという思いが

に依頼したことがありまして。その時、センターの対応がすごく良かったんです。こちらの身になつて提案してもらえて、就業されたシルバー会員さんも、きちんと仕事を仕上げてくださいました。これなら安心して任せられると、感心した覚えがあります。そんな経緯もあって、藤井マネージャーに提案したんですよ」

また、「博物館のアテンダントの補充や、ミュージアムショップのスタッフが必要な時

にもお願いしたいですね」と、前田さん

は今後の活用も考えていると言います。

当日就業中のシルバー会員さんにも

話を伺いました。「定年退職をして家にいたのですが、まだ何かできるという思いが

に依頼したことがありまして。その時、センターの対応がすごく良かったんです。こちらの身になつて提案してもらえて、就業されたシルバー会員さんも、きちんと仕事を仕上げてくださいました。これなら安心して任せられると、感心した覚えがあります。そんな経緯もあって、藤井マネージャーに提案したんですよ」

また、「博物館のアテンダントの補充や、ミュージアムショップのスタッフが必要な時

にもお願いしたいですね」と、前田さん

は今後の活用も考えていると言います。

当日就業中のシルバー会員さんにも

ふくらんで、シルバー人材センターに登録しました。飲食業は初めてだったので不安でしたが、お客様が私の作ったメニューを「かわいい!」と喜んで、写真に撮っている様子を見て嬉しくなりました。それからは今の仕事が生きていって、とくに盛りつけに気が配っています。毎日働くのは身体的に疲れるので、短時間の仕事はちょうど良く、家にいるより気持ちに張りがあります」

今日、コロナ禍などにより、働き方への考え方が変わってきています。シルバー人材センターの働き方は「臨・短・軽(りん・たん、けい)」と称されるように、「臨時的かつ短期的、または軽易な業務」の範囲と定められています。人材不足の課題を抱える企業と、短時間なら働きたいシルバー会員のマッチングは、ますます重要視されそうです。



カフェ厨房でお仕事

まだ

シルバー人材センターへの入会をお悩みの方

就労見学のご案内

参加
無料



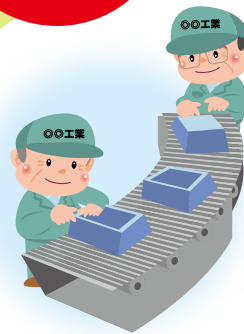
放課後児童
クラブ
保育園

介護施設



シルバー人材センターの仕組みや働き方はわかっていても、どんなところで働くのかやはり就業現場を見てみたい、シルバー人材センターを利用して、いる事業所や先輩会員の声を聞いてみたい方などにお勧めです。

工場



スーパー
マーケット



対象

入会説明会に参加された方 または 技能講習を修了された方
(シルバー人材センターに入会、入会申込済みの方は除きます。)

見学先

シルバー人材センター会員が実際に就業している派遣先事業所
(企業、団体)

定員

全10名、1回あたり1～3名

日時

申込ごとに随時日程調整します。(1～2時間程度)

申込方法

- ①入会説明会又は技能講習のガイダンス時にお配りする就労見学先リストから、ご希望の見学先を選んでください。
- ②所定の申込書に必要事項を記入の上、お住まいの地域のシルバー人材センターへご提出ください。

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、見学できない時期や就業先がある場合があります。

まずはお気軽に
ご参加ください



予約不要
入会説明会のご案内

センター名	所在地	電話番号 FAX番号	入会説明会 ※1 開催日時
公益社団法人 松江市シルバー人材センター	〒690-0823 松江市西川津町825-2	0852-27-0888 0852-27-2737	毎月1日、15日 10時～12時
公益社団法人 浜田市シルバー人材センター	〒697-0052 浜田市港町277番地	0855-23-4680 0855-23-6086	毎月20日 13時30分～15時
公益社団法人 出雲市シルバー人材センター	〒693-0002 出雲市今市町北本町2-1-6	0853-24-1787 0853-22-5830	毎週水曜日 14時～15時30分
公益社団法人 益田市シルバー人材センター	〒698-0012 益田市大谷町334-1	0856-24-2190 0856-22-4543	毎月第2、第4火曜日 13時30分～15時30分
公益社団法人 安来市シルバー人材センター	〒692-0007 安来市荒島町2176番地3	0854-28-6551 0854-28-6620	毎月第3火曜日 10時～11時
公益社団法人 江津市シルバー人材センター	〒695-0011 江津市江津町954番地61	0855-52-1616 0855-52-1617	毎月第3木曜日 13時30分～15時
公益社団法人 雲南市シルバー人材センター	〒699-1334 雲南市木次町大字新市3	0854-42-3642 0854-42-3646	毎月1日、15日 10時～12時
公益社団法人 奥出雲町シルバー人材センター	〒699-1821 仁多郡奥出雲町稲原57番地6	0854-52-0294 0854-52-0137	毎月第2水曜日 13時30分～15時
一般社団法人 津和野町シルバー人材センター	〒699-5221 鹿足郡津和野町日原245-1	0856-74-1501 0856-74-1509	毎月第2金曜日 13時30分～16時
美郷町シルバー人材センター	〒699-4621 邑智郡美郷町粕淵195-1	0855-75-1345 0855-75-1439	随 時
邑南町シルバー人材センター	〒696-0406 邑智郡邑南町高見485-1	0855-84-0123 0855-84-0460	随 時
吉賀町シルバー人材センター	〒699-5301 鹿足郡吉賀町柿木80	0856-79-2087 0856-79-2453	随 時
隠岐の島町シルバー人材センター	〒685-0027 隠岐郡隠岐の島町原田396番地	08512-3-1533 08512-2-4517	毎月第3金曜日 14時～15時

※1 土・日・祝日などにより、日程・会場等が変更になる場合があります。お手数ですが、あらかじめ該当シルバー人材センターにご確認ください。

※2 令和4年3月1日現在の情報です。

あなたの街にもシルバー人材センターを!

まだシルバー人材センターが設置されていない地域に、センター設立に向けての働きかけ及び支援を行っています。

○事業説明会の実施・説明者の派遣

シルバー人材センターの設立を検討する市町村・団体等に、事業の理念や仕組み、設立に向けての準備等に関する説明会の実施や説明者を派遣します。

○設置準備委員会・準備室に対する支援

地域への啓発活動やニーズ調査、会員・仕事の募集、さらには諸規程・事業計画・予算等の作成、職員に対する研修など、設立に関する具体的な準備の支援を行います。

○設立当初の業務支援

円滑に事業が開始できるよう、業務指導や事務処理等の支援を行います。



詳しくは、島根県シルバー人材センター連合会まで!

公益社団法人 島根県シルバー人材センター連合会

〒690-0887 松江市殿町8番地3 タウンプラザしまね2階

TEL.0852-28-1171 FAX.0852-28-1173

邑智分室 〒699-4621 邑智郡美郷町粕淵195番地1 美郷町保健福祉センター2階
TEL.0855-74-6231 FAX.0855-74-6232

隠岐分室 〒685-0027 隠岐郡隠岐の島町原田396番地 隠岐の島町社会福祉センター内
TEL.FAX.08512-3-1691

島根県 シルバー

検索

<https://webc.sjc.ne.jp/shimane/>